

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和4年7月20日(2022.7.20)

【国際公開番号】WO2018/200656

【公表番号】特表2020-517686(P2020-517686A)

【公表日】令和2年6月18日(2020.6.18)

【出願番号】特願2019-557833(P2019-557833)

【国際特許分類】

A 61K 39/39(2006.01)

10

A 61P 37/04(2006.01)

A 61K 39/145(2006.01)

A 61K 39/25(2006.01)

A 61K 39/002(2006.01)

A 61K 39/12(2006.01)

A 61K 39/02(2006.01)

C 07J 63/00(2006.01)

【F I】

A 61K 39/39

20

A 61P 37/04

A 61K 39/145

A 61K 39/25

A 61K 39/002

A 61K 39/12

A 61K 39/02

C 07J 63/00

【誤訳訂正書】

【提出日】令和4年7月11日(2022.7.11)

30

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0099

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0099】

驚くべきことに、本発明の発明者は、一部の態様ではQS-21及びQS-7などの他のQS抽出画分の合成類似物である本願の化合物が、有意なスタンドアローンのアジュvant活性、並びに高程度の耐用性及び/または低められた副作用を有することを見出した。これらの新規のアジュvant化合物は、天然のQS-21と比べるとその製造の費用効果が高く、予防的及び治療的ワクチン接種プログラムでの使用でより安定しており、より効能が高くかつより毒性が低い。幾つかの態様は、予測される1000mcgヒト用投与量に近似する投与量でのマウスにおける薬理学及び毒学的研究において検出可能な毒性を持たない。幾つかの態様では、驚くべきことに、それらのアジュvant特性をなおも維持しながら完全に非溶血性である。これは一部は驚くべきことである。なぜならば、最初は、QS-21毒性及び効力は、溶血現象とQS-21に伴う他の細胞毒性とに関連すると考えられていたからである。本願の幾つかの態様は、QS-21中のアシル鎖の不安定なエステル結合を非常に安定したアミド結合に置き換えて、その結果、QS-21のアジュvant活性類似物となることによって、より大きな安定性及び小さな溶血活性を発揮する。幾つかの態様は、また、QS-21と比べて簡素化された構造を有することで、合成QS-21と比べてより高い合成収率及び大きく減少した合成ステップ及び製造コスト

40

50

を為しつつも、アジュバント活性も保持する。

10

20

30

40

50